

## ドクターNAKAMURAの 健康道場



### Vol.50 姫、自家栽培 を始める

「姫、何か相当楽しそうやな。どないしてん？」

「御手洗さん、ここだけの話ですよ。誰にもいっちゃ嫌ですよ。実は、この間、座禅を組んだ時に和尚と無想空間で禅問答をしてたんですけど、ごくごく自然に、何の下心もなく、祖先の魂の記憶、再現してみたい。みたいなことを言っちゃったら、和尚がならばやってみるがよいつて言ったのよ。私は何のことかよく分からなかったけど、おー、望むところじゃ。って啖呵をきっちゃたんだけど2-3日して、和尚の使いとかいう人が来て、境内の荒れたこの一角、四畳半の土地を貸し与えるから自家栽培をしてみろというんですよ。最初はうへえって感じで、目の前が真っ白になっちゃったんですけど、よくよく考えると、えっ、もここで栽培したら収穫は全部もらえるの？それとも和尚に上納するだけ

なん？もしそうだったら和尚はええ死に方せんわ。って思いながら使いの人をちらっとみたんよ。そしたらその人が、主の考えておることは手に取るように分かっておる。主が育てたものは主が持ち帰ればよい。和尚の御心ぞ。って言うんですよ。思わず受けちゃった。」

「なんや、そんな事かいな。わたしにもその鮮度のいいやつを頼むわ。」

「なわけないでしょ。働かざる者食うべからず。子供に持って帰ります〜。」

「ていうか、まだ、畑になってないんですけど。ほんまに野菜を栽培できるんかいな、こんな石ころと藪木が被い茂ったところで。何年かかるか分かれへんで。」

「御手洗さんは、そうやってこつこつ仕事して身体を動かすことを嫌うから、健康道場に入門しないといけなくなったんでしょ。原点回帰で初心に戻ったらどうですか？」

「キミに言われたないわ。君はわしの妹弟子って分かってんかな？」

姫は言われるまでもなく、四畳半のお世辞にも広いとは言えない土地のやっとな分の一程度を刈り終えたところであった。

そよかぜ 循環器内科・糖尿病内科  
(県立中央病院 前)

院長 中村 陽一